

# 医療だより

## 市民医療センター

戸田市美女木4-20-1

☎ 421-4114 FAX 421-4218

国際興業バス 西川口～北戸田線

●「市民医療センター」下車

tocoバス(美笹循環)

●「市民医療センター」下車



### 診療科目

● 内科、小児科、消化器内科、神経内科、呼吸器内科、整形外科、耳鼻咽喉科  
診療科目によっては、診療日が決まっている場合があります

### 受付時間

- 月曜日 午前8時30分～11時30分、午後2時～5時
- 火～金曜日 午前8時30分～11時30分、午後1時30分～5時
- 土曜日 午前8時30分～11時30分、午後1時30分～4時
- 予防接種：月・水・金曜日(要予約)

## 休日・平日夜間の診療機関(急患)

かかりつけ医を持ち、早めの受診を心掛けましょう

※休日・平日夜間の診療機関は、診療時間内に受付を済ませてください

新型コロナのPCR検査は行っていません。

【内科・小児科】※詳しくは蕨戸田市医師会ホームページをご覧ください

### 戸田休日・平日夜間急患診療所

●蕨戸田市医師会館となり ☎445-1130

休日診療日 11/3、6、13、20、23、27

休日診療時間 午前9時～正午、午後1時～5時

平日夜間診療月 11月(奇数月)

毎週月～金曜日の平日夜間診療時間

午後7時30分～10時30分 ※休日を除く

### 蕨休日・平日夜間急患診療所

●蕨市福祉・児童センター内 ☎431-2611

休日診療日 12/4、11

休日診療時間 午前9時～正午、午後1時～5時

平日夜間診療月 12月(偶数月)

毎週月～金曜日の平日夜間診療時間

午後7時30分～10時30分 ※休日を除く

### 【小児科】※平日夜間診療時間のあと

毎週月～金曜日の平日夜間診療時間 午後10時30分～翌朝7時

※受診される場合は、必ず事前に各医療機関に電話でお問い合わせください

月・水・木・金曜日 ●戸田中央総合病院(戸田市本町1-19-3 ☎442-1111)

火曜日 ●済生会川口総合病院(川口市西川口5-11-5 ☎253-1551)



【産婦人科】休日診療時間 午前9時～正午、午後1時～5時

※当番医は変更になる場合もあります。受診前に必ず電話でお問い合わせください。受診は急患のみです

11月3日(祝・木)	西村レディースクリニック ☎447-5311 戸田市本町3-15-21
11月6日(日)	戸田中央産院 ☎444-1181 戸田市上戸田2-26-3
11月13日(日)	蕨市立病院 ☎432-2277 蕨市北町2-12-18
11月20日(日)	戸田中央産院 ☎444-1181 戸田市上戸田2-26-3
11月23日(祝・水)	岩沢レディースクリニック ☎445-4103 戸田市本町4-17-28 WINビル301号
11月27日(日)	桜公園クリニック ☎446-3950 戸田市新曽南3-12-18
12月4日(日)	蕨市立病院 ☎432-2277 蕨市北町2-12-18
12月11日(日)	白石はなもレディースクリニック ☎434-4809 戸市新曽2200-2ロイヤルメドウ北戸田2F

## 救急電話相談

#7119 ☎048-824-4199 (ダイヤル回線、IP電話、PHS、都県境の地域でご利用の場合)

24時間相談対応 年中無休

年齢を問わず、急な病気(発熱、下痢、嘔吐など)やけがの家庭での対処方法や医療機関の受診の必要性について、看護師が電話で相談に応じます。判断に迷ったときは気軽にご連絡ください。緊急に医療機関の受診が必要な時は、受診可能な医療機関(歯科を除く)を案内します。

※県AI救急相談も行っています。電話が苦手な方でも気軽に相談できます。県医療整備課のホームページから、スマートフォンやパソコンでご利用ください。この電話相談およびAI救急相談は助言を行うもので、診断や治療を行うものではありません

問い合わせ 県医療整備課 ☎048-830-3559



県精神科救急情報センター ☎048-723-8699 (ハローキューキュー)

夜間・休日に、精神疾患を有する方や、その家族などからの緊急的な精神科医療相談を電話で受け付けています。相談内容から適切な助言を行い、必要に応じて医療機関の紹介を行います。非通知設定の電話はつながりませんので、番号を通知できる電話でお掛けください(県在住者が対象)。

受付時間 月～金曜日：午後5時～翌朝8時30分

土・日曜日、祝日：午前8時30分～翌朝8時30分

問い合わせ 県立精神保健福祉センター ☎048-723-3333

## コラム

### 「ポリファーマシー」の問題をご存じですか？

「ポリファーマシー」とは「害のある多剤服用」を意味する言葉です。多くの薬を飲むことで、薬の副作用や薬同士の相互作用が出やすくなったり、残薬が増え飲み間違いが起これり、体への害が出やすくなります。厳密な定義はありませんが、6種類を超える有害事象が急に多くなると言われます。

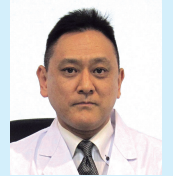
多剤になる原因は、特に高齢者で複数の慢性疾患に罹患していることや、複数の医療機関を受診していることなどがあげられます。薬剤服用後に起こる不具合を別の薬で対処し、それを繰り返し続ける「処方カスケード」が起こっている場合もみられます。

どの薬が必要でどの薬が悪さをしているかの見極めが難しいこともしばしばです。特に薬剤数が多かったり、長期に飲み続けていたり、複数の医療機関を受診している場合などは判断に苦慮します。

また、薬を1つ増やすときは今までの薬を1つ減らすように心掛けることも大切です。

今飲んでる薬が本当に必要か、主治医や薬剤師に相談することをおすすめします。

問い合わせ 市民医療センター ☎421-4114



戸田市立市民医療センター 所長 飯島 昌一  
神経内科